

ディスク・パッドの慣らしについて

すべての鋳鉄ディスクは、高温時の熱安定性確保とクラック性能を確保する為に慣らし走行が必要となります。適切な慣らし走行を行わず急激に熱を入れた場合、わずかな距離でも熱歪みやクラックが発生することがありますので、必ず下記内容を参考に、慣らし走行を行って下さい。

レーシングカーの場合

1. エアダクトを装着している場合は、開口部を 3/4 を塞いで下さい。
2. 既に焼入れの終わったパッドを使用して下さい。
3. 最低でも 15km を、最初はブレーキを低速にてスムーズに使用し、その後、段階的に通常レーシング速度域までスピードを上げていきますが、ブレーキ操作は引き続きスムーズに行ってください。
4. 最後の 2,3 ラップはハードブレーキングを行ってください。
5. もし AP RACING サーマルペイントを使用していれば、緑色(430 度)が完全に変色し、オレンジ色(560 度)が外側のエッジだけ変色している状態が目安です。
6. そのまま常温まで冷却して下さい。以上で完了です。

ロードカーの場合

1. 本作業は安全を確保しながら、慣らし走行が出来るサーキット等にて行って下さい。
2. この作業の目的は、熱衝撃を起こさずに、緩やかにブレーキシステム全体を加熱する事と、同時にブレーキディスクとパッドの表面のあたりをつける事です。
3. 車両が静止した状態で、ブレーキペダルをポンピングし、ペダルフィールが硬い事を確認して下さい。
4. ブレーキが正しく装着され、機能しているかどうかを確かめる為に、ゆっくりと運転して下さい。
5. スムーズにブレーキをかけて、引きずりやバイブレーションが無い事を確認して下さい。
6. 最初は、90km/h から 50km/h への軽い減速を最低 30 回行った後、1km 以上のクーリング走行をする。この作業を 5 セット繰り返して下さい。(各セット間には、必ず 1km 以上のクーリング走行を入れて下さい)
7. その後の走行距離 160km までは、ブレーキの掛け方を段階的に強くしていきますが、110 km/h 以上からの急制動は避けて下さい。
8. さらに 160km の距離を同様の方法で走行すれば、慣らしは完了です。この時には、ディスクのボルト周辺は焼きが入り、青みがかかった色になっています。
9. サーキットなどでハードにご使用する場合は、必ずウォーミングアップラップとクーリングラップを最低 1 周は行って下さい。
10. 全行程において、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に操作しての引きずりはしないで下さい。